

各科研修内容及び到達目標

I. 内 科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院内科

指導責任者	松 本 裕	(呼吸器内科：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医・指導医、アレルギー学会専門医、呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、結核病学会結核・抗酸菌症認定医、ICD制度協議会認定インテグレーションコントロール [®] カー、産業医)
指 導 医	竹 下 康 代	(腎臓内科：内科学会総合内科専門医、腎臓学会専門医、透析医学会専門医、アフレスミス専門医、高血圧指導医、産業医)
指 導 医	山 本 和 寿	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医)
指 導 医	井 上 聡	(呼吸器内科：内科学会認定内科医)
指 導 医	橋 本 千寿子	(血液内科：内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、がん薬物療法専門医・指導医、がん治療認定医・暫定教育医)
指 導 医	今 木 隆 太	(循環器内科：内科学会認定内科医、循環器学会循環器専門医、不整脈心電学会不整脈専門医、内科学会総合内科専門医、心血管インターベンション治療学会認定医)
指 導 医	高 橋 謙一郎	(糖尿病・内分泌内科：内科学会認定内科医、糖尿病学会専門医)
指 導 医	山 崎 哲	(リウマチ科)
指 導 医	岡 本 光 生	(脳神経内科：神経内科専門医)
指 導 医	柳 田 直 毅	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、がん治療認定医)
指 導 医	亀 田 亮	(消化器内科：内科学会認定内科医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、がん治療認定医)
指 導 医	淺 見 昌 樹	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器病学会専門医)
指 導 医	服 部 友歌子	(血液内科：内科学会総合内科専門医、血液学会専門医)
指 導 医	原 美 朋	(腎臓内科：内科学会認定内科医、腎臓学会専門医、透析医学会専門医)
指 導 医	中 島 健太郎	(呼吸器内科：内科学会認定内科医)
指 導 医	柿 崎 良 太	(循環器内科：内科学会認定内科医、循環器学会専門医)
指 導 医	片 佑 樹	(呼吸器内科：内科学会認定内科医、呼吸器学会専門医)
指 導 医	澁 谷 論 之	(腎臓内科：内科学会認定内科医)
指 導 医	小 林 周 平	(循環器内科：内科学会専門医)
指 導 医	川 口 優 花	(脳神経内科：内科学会認定内科医)

[2] 研修内容

- ・内科24週は、基本的には循環器・呼吸器及び消化器の3科目を8週ずつローテートする。その他の内科（リウマチ、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科）も、基本のローテート中に適宜希望に応じて実習を受けることが可能である。
- ・各時間帯で指導医のマンツーマン指導を行う。
- ・基本的な臨床検査、手技は更に病棟や救急外来などでその都度行う。
- ・基本的な治療法はEBMにのっとり指導医、専門指導医が指導する。
- ・一般外来での研修を、内科の研修中に並行研修により行う。特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修とする為、内科初診外来での研修を行う。

内科週間スケジュール（ローテーション時期により変更あり）

【 呼吸器内科 】

呼吸器	午前		午後	
月曜日	外来見学		気管支鏡	
火曜日	病棟		カンファレンス	
水曜日	病棟		気管支鏡	
木曜日	病棟		外来見学	
金曜日	病棟		評価 C P C 又は C C	

※呼吸器疾患全般の患者を担当する。胸部レントゲン・CT読影、感染症や呼吸不全への対応を含め研修する。

【 消化器内科 】

消化器	午前		午後	
月曜日	内視鏡（上部）		内視鏡（下部）・T	
火曜日	回診		病棟	内科・外科カンファレンス
水曜日	病棟		内視鏡（下部）	
木曜日	回診・R F A 等		E R C P ・ 回診	病棟回診
金曜日	内視鏡（上部）		E R C P ・ P T C D 他	評価 C P C 又は C C (第3)

※入院患者が多いため、多くの症例・手技を体験できる。

【 循環器内科 】

循環器	午前		午後	
月曜日	病棟		トレッドミル・勉強会	
火曜日	カンファレンス・ 心臓カテーテル		心臓カテーテル	
水曜日	病棟		病棟	
木曜日	カンファレンス・ 心臓カテーテル		心臓カテーテル	
金曜日	病棟		病棟回診・勉強 合同カンファレンス・ カテ後カンファレンス・	
土曜日	各種研究会参加等			

※心臓カテーテル目的の患者を主に担当し、その症例から循環器的な検査の読影を学び、カンファレンスで症例を提示することで、プレゼンテーションの必要なことを習得する。また、各種手技に参加し、習熟度に応じて実践を考える。

【 腎臓内科 】

腎臓内科	午前		午後	
月曜日	透析（カテ入れ、			
火曜日	シャント手術		カンファレンス 腹膜透析外来	
水曜日	透析		腎生検	
木曜日	シャント手術		回診、カンファレンス 腹膜透析外来	
金曜日	透析			
土曜日	各種研究会参加等			

【 血液・腫瘍内科 】

血液・腫瘍	午前		午後	
月曜日	病棟		専門外来	
火曜日	専門外来		緩和ケアミーティン グ	
水曜日	病棟		カンファレンス (病棟・化学療法室)	
木曜日	専門外来		病棟	
金曜日	病棟		専門外来	
土曜日	各種研究会参加等			

※他に、キャンサーボード、院内のがん診療に関わる勉強会等を行う。

※悪性腫瘍をはじめとした、造血器疾患の診断と治療・固形がんの薬物療法を行っている。化学療法が中心だが、外科・放射線科・緩和ケアチームと連携し、チームとしてがん診療にあたっている。

【 糖尿病・内分泌内科 】

糖尿病及び合併症の診断・治療を行っている。月2回木曜午後に行っている糖尿病教室では、医療技術スタッフと連携して糖尿病患者への集団教育も行う。また、内分泌代謝疾患についても治療する。

【 リウマチ科 】

関節リウマチ・各種膠原病の診断と治療を行っている。特に関節リウマチに関する生物学的製剤は6種類全て使用でき、最先端の治療を行うことができる。また、腎臓内科と協力して腎生検を施行し、SLE・血管炎による腎障害の診断も迅速に行っている。

II. 救急部門(麻酔科を含む)

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院

指導責任者	矢尾正祐	(泌尿器科：日本泌尿器学会専門医・指導医)
指導医	工藤一大	(麻酔科標榜医、麻酔学会麻酔科専門医・指導医)
指導医	井上素樹	(麻酔科標榜医、麻酔学会麻酔科専門医・指導医)
指導医	松本裕	(呼吸器内科：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医・指導医、アレルギー学会専門医)
指導医	竹下康代	(腎臓内科：内科学会総合内科専門医、腎臓学会専門医、透析医学会専門医、アフレスミス専門医、高血圧指導医、産業医)
指導医	山本和寿	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医)
指導医	井上聡	(呼吸器内科：内科学会認定内科医)
指導医	橋本千寿子	(血液内科：内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、がん薬物療法専門医・指導医、がん治療認定医・暫定教育医)
指導医	今木隆太	(循環器内科：内科学会認定内科医、循環器学会循環器専門医、不整脈心電学会不整脈専門医、内科学会総合内科専門医、心血管インターベンション治療学会認定医)
指導医	高橋謙一郎	(糖尿病・内分泌内科：内科学会認定内科医、糖尿病学会専門医)
指導医	山崎哲	(リウマチ科：)
指導医	岡本光生	(脳神経内科：神経内科専門医)
指導医	柳田直毅	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、がん治療認定医)
指導医	亀田亮	(消化器内科：内科学会認定内科医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、がん治療認定医)
指導医	浅見昌樹	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器病学会専門医)
指導医	服部友歌子	(血液内科：内科学会総合内科専門医、血液学会専門医)
指導医	原美朋	(腎臓内科：内科学会認定内科医、腎臓学会専門医、透析医学会専門医)
指導医	中島健太郎	(呼吸器内科：内科学会認定内科医)
指導医	柿崎良太	(循環器内科：内科学会認定内科医、循環器学会専門医)
指導医	片佑樹	(呼吸器内科：内科学会認定内科医、呼吸器学会専門医)
指導医	澁谷論之	(腎臓内科：内科学会認定内科医)
指導医	小林周平	(循環器内科：内科学会専門医)
指導医	川口優花	(脳神経内科：内科学会認定内科医)
指導医	藏並勝	(乳腺外科：外科専門医・指導医、乳腺専門医)

- 指 導 医 小 倉 直 人 (消化器外科：外科専門医、消化器外科専門医)
- 指 導 医 根 本 昌 之 (消化器外科：外科専門医)
- 指 導 医 中 宮 紀 子 (乳腺外科：外科専門医、乳腺専門医)
- 指 導 医 田 中 蓉 子 (乳腺外科：外科専門医、マンモグラフィー読影認定医)
- 指 導 医 大 泉 陽 介 (消化器外科：外科専門医)
- 指 導 医 町 井 正 人 (心臓血管外科：外科専門医・指導医、胸部外科認定医、心臓血管外科専門医、脈管学会認定脈管専門医、血管内治療医)
- 指 導 医 林 陸 (整形外科：日本整形外科学会専門医)
- 指 導 医 村 田 淳 (整形外科：日本整形外科学会専門医、身体障害者福祉法指定医)
- 指 導 医 竹 内 久 恵 (整形外科：)
- 指 導 医 鈴 木 宙 (整形外科：日本整形外科学会専門医)
- 指 導 医 横 山 弓 夏 (整形外科：)
- 指 導 医 片 野 俊 弘 (整形外科：)
- 指 導 医 志 藤 宏 計 (形成外科：形成外科学会専門医)
- 指 導 医 山 田 勝 (脳神経外科：日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会脳卒中専門医、日本脳神経外科学会代議員、日本脳卒中での外科学会代議員、日本脳循環代謝学会評議員、身体障害者福祉法指定医(肢体不自由)、北里大学医学部非常勤講師)
- 指 導 医 萩原 宏 之 (脳神経外科：難病指定医、小児慢性特定疾病指定医、日本脳神経外科学会指導医、日本がん治療認定医機構がん認定医、日本頭痛学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本抗加齢医学会専門医、共用試験医学系OSCE評価者)
- 指 導 医 岡 島 和 登 (泌尿器科：日本泌尿器学会専門医・指導医)
- 指 導 医 古 屋 一 裕 (泌尿器科：日本泌尿器科学会専門医・指導医)
- 指 導 医 山 根 敬 浩 (眼科：日本眼科学会専門医)
- 指 導 医 河 野 菜々子 (眼科：日本眼科学会専門医)
- 指 導 医 永 井 浩 巳 (耳鼻咽喉科：日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会認定医、日本耳鼻咽喉科補聴器相談認定医)
- 指 導 医 徳 永 千 春 (皮膚科：日本皮膚科学会認定専門医)
- 指 導 医 石 川 雅 彦 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医、母体保護法指定医、日本生殖医学会生殖医療指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医)
- 指 導 医 持 丸 綾 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)
- 指 導 医 長谷川 哲 哉 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細

胞学会細胞診専門医)

指 導 医	上 田 麗 子	(産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)
指 導 医	田 吹 梢	(産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)
指 導 医	栗 生 耕 太	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学学会周産期(新生児)専門医)
指 導 医	早 野 聡 子	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医)
指 導 医	和 田 芳 雅	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医)
指 導 医	江 原 貴 子	(小児科：日本小児科学会専門医)
指 導 医	渡 邊 季 彦	(小児科：日本小児科学会専門医)
指 導 医	山 本 亜 矢 子	(小児科：日本小児科学会専門医)
指 導 医	窪 田 祥 平	(小児科：日本小児科学会専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

プライマリ・ケアの基本として、生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態や疾病・外傷に対して適切な対応ができる能力を身に付ける。

II. 経験目標

1. バイタルサインの把握ができる。
2. 重症度及び緊急度の把握ができる。
3. 患者又は家族から、発症前後の状況を適切に聴取できる。
4. ショックの診断と治療ができる。
5. 二次救命処置ができ、一次救命処置を指導できる。
 - 1) 一次救命処置(気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸などの機器を使用しない処置)が指導できる。
 - 2) 二次救命処置(バッグ・マスクを使用した心肺蘇生法、除細動、気管挿管、静脈、CVルート確保、薬剤投与などの救命処置)ができる。
 - 3) 胃管、膀胱カテーテルの挿入ができる。
 - 4) 呼吸器を装着し、呼吸管理ができる。
 - 5) 輸血の適応の判断及び輸血の実施ができる。
 - 6) 大量出血の一時的対応及び処置ができる。
 - 7) 初期治療を行いながら、適切な専門医に連絡を取ることができる。
 - 8) 創傷の基本的処置(止血、縫合、感染防止など)ができる。

6. 医療記録

- 1) 診断書、死亡診断書、死体検案書などを作成し、管理できる。
 - 2) 事故、事件に係わる医療における社会的対応が理解できる。
 - a) 警察への届け出及び法医学的知識を習得する。
 - 3) 紹介状と紹介状の返信が作成でき、それを管理できる。
7. 頻度の高い症状（発熱、頭痛、めまい、視力障害、呼吸困難、嘔気・嘔吐、四肢のしびれなど）と身体所見及び検査結果に基づいて、鑑別診断ができる。
8. 救急患者の症状や病態（心肺停止、ショック、意識障害、脳血管障害、急性心不全、急性冠症候群、急性腹症、急性消化管出血、外傷、急性中毒など）の初期治療に参加できる。

[3] 研修内容

- ・最初の4週は麻酔科で気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法を含む基本手技及び全身管理法を研修する（「麻酔科」の項参照）。
- ・その後、必修分野あるいは選択分野を研修中に、救急の並行研修または月4回程度の日当直勤務にて救急外来を中心とする研修を行い、8週分の救急部門の研修とする。

備考：特定の必修分野を研修中に、救急の並行研修を行う場合、その日数は当該の特定の必修分野の研修期間に含まれないことに留意する。

- ・日本救急医学会が認定する院外の ACLS 講習会等へ参加することが望ましい。（日程・場所は応相談）

麻酔科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察					臨床麻酔又は麻酔前後診察						
火曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察					臨床麻酔又は麻酔前後診察						
水曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察					臨床麻酔又は麻酔前後診察						
木曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察					臨床麻酔又は麻酔前後診察						
金曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察					臨床麻酔又は麻酔前後診察				C P C 又は C C (第3)		
土曜日	各種研究会参加等												

Ⅲ. 地域医療

[1] 指導責任者及び指導医・指導者

大和市立病院

指導責任者 松本 裕 (総合内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医)

大和市医師会

指導医 救急医療担当 玉井 伸哉 (医師会救急医療担当理事)

指導者 訪問看護担当 神原 雅美 (大和市訪問看護ステーション看護師)

[2] 到達目標

I. 行動目標

- ① 地域の診療所での外来診療や在宅医療を経験する。
- ② 一次救急で頻度の高い疾患の初期治療及び二次救急、三次救急や各診療科へのコンサルテーションができる。(大和市地域医療センター休日夜間急患診療所)
- ③ 地域医療における病診連携を理解し、各機関と適切で迅速なコミュニケーションをとり、訪問診療のための診療情報提供書を適切に作成できる。また、大和市医師会所属の診療所からの求めに応じ、必要で迅速な検査や入院加療の際に、患者サポートセンターが果たす役割を理解し、実践できる。
- ④ 加齢や老化に伴う病態や障害を理解し、大和市の特性に応じた医療(孤老や老老介護世帯)における患者のニーズを探り、在宅訪問看護ステーションの果たす役割を理解し、現場を経験する。また、適切な訪問看護指示書を作成できる。
- ⑤ 介護保険サービスの実際を理解し、体験する。
- ⑥ 介護保険制度を理解し、介護認定審査会に臨席する。意見書の作成ができる。

II. 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

- ① 医療面接(インタビュー、患者ニーズの把握等)でのコミュニケーションスキル (傾聴、承認、質問)
- ② 障害老人の日常生活自立度 (ねたきり度)
 - ① 改訂版長谷川式スクリーニングテスト (HDS-R)
 - ② 痴呆性老人の日常生活自立度
 - ③ Barthel Index (ADL 評価)
 - ④ 診療情報提供書及びその返信の作成及び管理
 - ⑤ 介護保険意見書の作成及び管理

B 経験すべき症状・病態・疾患

- ① 老年症候群 (誤嚥・転倒・失禁・褥創)
- ② 廃用症候群 (筋力低下・拘縮・褥創・認知症)
- ③ 誤用症候群 (筋肉痛、etc)
- ④ 問題行動 (幻視・幻聴、妄想、昼夜逆転、暴言、暴行、介護への抵抗、徘徊、火の不始末、不潔行為、異食行動、性的問題行動、その他)
- ⑤ 認知症疾患 (脳血管性、アルツハイマー性、老年期、若年性等を含む)
- ⑥ 骨粗鬆症
- ⑦ 高齢者の栄養摂取障害 (誤嚥、嚥下障害、低栄養、拒食症)

[1] 研修内容

曜日	午前	午後
月曜日	診療所及びリハビリ訓練場面での診療	各種書類作成に関する質疑応答
火曜日	診療所及びリハビリ訓練場面での診療	リハビリテーションカンファレンス
水曜日	診療所及びリハビリ訓練場面での診療	診療情報に関する講義と質疑
木曜日	診療所及びリハビリ訓練場面での診療	診療情報に関する講義と質疑
金曜日	診療所及びリハビリ訓練場面での診療	介護保険の意見書の作成

※大和市地域医療センター休日夜間診療所及び当院救急外来は、平日夜間及び休日のうち3～4日程度

IV. 外 科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市長立病院外科

- 指導責任者 藏 並 勝 (乳腺外科：外科専門医・指導医、乳腺専門医)
指 導 医 小 倉 直 人 (消化器外科：外科専門医、消化器外科専門医)
指 導 医 根 本 昌 之 (消化器外科：外科専門医)
指 導 医 中 宮 紀 子 (乳腺外科：外科専門医、乳腺専門医)
指 導 医 田 中 蓉 子 (乳腺外科：外科専門医、マンモグラフィー読影認定医)
指 導 医 大 泉 陽 介 (消化器外科：外科専門医)
指 導 医 町 井 正 人 (心臓血管外科：外科専門医・指導医、胸部外科認定医、心臓血管外科専門医、脈管学会認定脈管専門医、血管内治療医)
指 導 医 志 藤 宏 計 (形成外科：形成外科学会専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 外科を通じ医師としての基本理念・総合的医療としての知識・技術の習得を行う。
2. 外科において一般外科学の基本的知識及び技術の習得に努める。
3. 外来で、適切な診断・処置・治療方針の選択・患者教育ができる。
4. 入院患者の受持医として、診断、治療方針の決定、処置・治療の実際を担当できる。
5. 外傷、急性腹症、ショック等、緊急を要する患者の初期診療の臨床的能力を身に付ける。

II. 経験目標

1. スタッフの指導の下に患者対応の仕方、基本的診察法を学ぶ。
 - 1) 面接技法 (患者、家族との適切なコミュニケーションの能力を含む)
 - 2) 全身の観察 (バイタルサイン、精神状態、皮膚の観察、表在リンパ節の診察を含む)
 - 3) 頭・頸部の診察 (眼底検査、外耳道、鼻腔、口腔、咽喉の観察、甲状腺の触診を含む)
 - 4) 胸部の診察 (乳房の診察を含む)
 - 5) 腹部の診察 (直腸診を含む)
2. 基本的検査法
3. 基本的治療法及び治療計画ができる。

《1》自ら実施できる。

《2》必要性を判断し、適応を決定できる。

 - 1) 外科的治療
 - 2) 放射線的治療
 - 3) 医学的リハビリテーション
 - 4) 精神的、心身医学的治療
4. 基本的手技
5. 救急患者に対する診断、処置を学ぶ。
6. 術前術後の患者管理を学ぶ。

7. 外傷患者の管理を学ぶ。
8. 末期患者への対応の仕方を学ぶ。
9. 手術の助手を務め、基本的手術手技を修得する。
10. 各種内視鏡、超音波による診断について基礎的知識、手法を修得する。
11. 各種消化管造影、血管撮影、CT、MRI等の検査法の実際と読影診断術を学ぶ。

[3] 研修内容

- ・外来診療を指導医の下で行う。(随時)
- ・病棟で患者の受持医となり、指導医の下に入院患者の診療に当たる。
- ・外科で行われる特殊検査・治療に関して指導医の介助又は見学をする。
- ・手術の助手として参加する。
- ・週1回程度の当直を行い、当直時には指導医の下で救急患者の診療に当たると共に、病棟の患者の管理も行う。
- ・総回診、術前症例検討会、抄読会等の外科の行事に参加する。
- ・院内他科との合同カンファレンス(消化器内科との合同症例検討会)、CPC、CC等の院内行事に参加する。
- ・院外の研究会、学会(地方会)に参加又は演者として発表する。
- ・文献検索を行う。

外科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
月曜日	回診 手術・外来小手術 患者カンファレンス					手術						
火曜日	回診 手術 患者カンファレンス					手術			消化器内科・外科カンファレンス			
水曜日	回診 手術 患者カンファレンス					手術						
木曜日	抄読会 内視鏡検査 消化管造影検査					総回診 患者カンファレンス						
金曜日	回診 手術 患者カンファレンス					手術			CPC又はCC (第3)			
土曜日	各種研究会参加等											

V. 麻 醉 科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院麻酔科

指導責任者 工 藤 一 大 (麻酔科標榜医、麻酔学会麻酔科専門医・指導医)

指 導 医 井 上 素 樹 (麻酔科標榜医、麻酔学会麻酔科専門医・指導医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

- 1) 各種麻酔法を理解し、気管内挿管による全身麻酔、硬膜外麻酔、腰椎麻酔等につき指導医の監督の下に行える。
- 2) 救急蘇生術を学び、プライマリ・ケアとしての救急蘇生に対応できる。

II. 経験目標

1. 麻酔前患者診察により、術前患者の身体状況を評価できる。
2. 麻酔管理に必要な基本的手技
 - 1) 静脈の確保、中心静脈の確保、動脈へのカニューレーション、マスクによる換気、気管内挿管やラリングアルマスクなどによる気道確保ができる。
 - 2) 麻酔器、モニター機器、血液ガス分析装置などの医療機器の取り扱いができる。
 - 3) 麻酔薬の特性を知り、適切に使用できる。
 - 4) 鎮痛薬、鎮静薬、筋弛緩薬、抗不整脈薬、血管作動薬、麻酔などの特性を知り、術中に適切に使用し、呼吸及び循環管理ができる。
 - 5) 心電計、パルスオキシメーター、炭酸ガスモニターなど各種のモニターから得られる生体情報を解釈できる。
 - 6) 脊椎麻酔、硬膜外麻酔、腕神経叢ブロック、閉鎖神経ブロックなどができる。
3. 各種麻酔方法の特性（利点・欠点）を知り、適切な麻酔方法が選択でき、麻酔の危険性を理解できる。

[3] 研修内容

麻酔科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察				臨床麻酔又は麻酔前後診察							
火曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察				臨床麻酔又は麻酔前後診察							
水曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察				臨床麻酔又は麻酔前後診察							
木曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察				臨床麻酔又は麻酔前後診察							
金曜日	麻酔前後カンファレンス	臨床麻酔又は麻酔前後診察				臨床麻酔又は麻酔前後診察				C P C又はC C (第3)			
土曜日	各種研究会参加等												

VI. 小児科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院小児科

指導責任者	栗生 耕太	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医)
指導医	早野 聡子	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医)
指導医	和田 芳雅	(小児科：日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医)
指導医	江原 貴子	(小児科：日本小児科学会専門医)
指導医	渡邊 季彦	(小児科：日本小児科学会専門医)
指導医	山本 亜矢子	(小児科：日本小児科学会専門医)
指導医	窪田 祥平	(小児科：日本小児科学会専門医)

到達目標

I. 行動目標

1. 成長・発達の過程にある小児の特性を学び、小児科及び小児科医の役割を理解する。
2. 小児医療（総合、救急、専門、育児支援、予防医学、新生児）の基礎的な知識と技能を習得する。

II. 経験目標

1. 小児及びその保護者から、主訴と現病歴を適切に聴取し、記載することができる。
2. 小児の理学的所見を的確に取り、記載することができる。
3. 小児の基本手技（採血、導尿、点滴、腰椎穿刺、胃洗浄など）が実施できる。
4. 小児のデータ〔検査値、心電図、画像（X線、超音波、CT、MRIなど）〕を的確に解釈できる。
5. 小児薬用量の知識を身に付け、各年齢に応じた用法、用量、剤型の選択ができる。
6. 小児の各年齢（新生児～思春期）における成長、発達、生理機能の正常範囲を把握できる。
7. 小児科外来における common disease（感染症、アレルギー疾患など）の診断と治療ができる。
8. 小児に多い救急疾患(発熱、痙攣、呼吸困難、嘔吐、意識障害、脱水など)の診断と処置ができる。
9. 小児の水・電解質・酸塩基平衡の特性を理解し、適切な輸液療法を実施できる。
10. 小児の成育医療（健康診断、予防接種、虐待防止、福祉など）を指導医の下で実施できる。
11. 小児の慢性疾患（内分泌、腎臓、循環器、神経、先天奇形など）の治療・管理法を理解できる。
12. 新生児の診察と治療を指導医の下で実施できる。マス・スクリーニング検査の意義を理解できる。
13. 小児の保護者への適切な対応法を身に付け、良好な信頼関係を確立することができる。

14. 小児医療現場の安全管理、事故対策、院内感染対策について理解できる。

[3] 研修医の配置、研修内容

1. 一般外来で指導医について診療を行う。(週2回)
2. 専門外来で指導医について診療に参加する。(週1回)
3. 病棟で指導医について5名程度の患者の受持医となり診療を行う。(毎日)
4. 受持患者のサマリーを提出する(週1回)
5. 新生児回診を指導医について行う。(週1回)
6. ハイリスク児の分娩に指導医と共に立ち会う。(適宜)
7. 心電図、脳波、画像の診断を行う。(毎日)
8. 乳幼児検診・予防接種外来で指導医について参加する。(週1回)
9. 当直業務を指導医の下で行う。(週1回程度)
10. 総合回診(週2回)、抄読会・症例検討会(週1回)の小児科行事に参加する。
11. 院内合同カンファレンス(CPC、勉強会、学術講演会)に参加する。
12. 院外の研究会、学会に参加又は発表する。

小児科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟診療、新生児回診					病棟診療、外来(時間外)				回診			
火曜日	一般外来					育児相談 予防接種外来							
水曜日	病棟診療、新生児回診					専門外来(腎臓)							
木曜日	一般外来					専門外来(心臓・神経)				勉強会			
金曜日	病棟診療、新生児回診					専門外来(内分泌・代謝)				回診			
土曜日	(各種研究会参加等)												

Ⅶ. 産婦人科

[1] 指導責任者及び指導医

- 指導責任者 石川 雅彦 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医、母体保護法指定医、日本生殖医学会生殖医療指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医)
- 指導医 持丸 綾 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)
- 指導医 長谷川 哲哉 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医)
- 指導医 上田 麗子 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)
- 指導医 田吹 梢 (産婦人科：日本産科婦人科学会専門医)

[2] 到達目標

妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を修得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を主体とする。

I. 行動目標

1. 正常妊娠、正常分娩、異常妊娠、異常分娩について理解し、緊急時のプライマリ・ケアができる。
2. 胎児、新生児に関する知識を学び、周産期の児に対する対応を理解する。
3. 各種産婦人科疾患について学び、基本的診断法及び治療法ができる。

II. 経験目標

1. 産科の臨床

- 1) 正常妊娠、分娩、産褥の管理ができる。
 - a) 月経歴、妊娠歴、出産歴の聴取ができる。
 - b) 外診、内診、双合診ができる。
 - c) 分娩直後の新生児の処置、管理ができる。
- 2) 異常妊娠、分娩、産褥の管理のプライマリ・ケアを行うことができる。
 - a) 出血に対する緊急処置ができる。
- 3) 妊婦、産婦、褥婦の薬物療法を母児双方の安全性を考慮してできる。
- 4) 産科検査の原理と適応を理解し、検査結果を判断できる。
 - a) 妊娠の診断法
 - b) 超音波検査法
 - c) 分娩監視装置による検査法
- 5) 産科手術の習得
 - a) 会陰切開縫合術ができる。
 - b) 帝王切開術の介助ができる。
- 6) 産科麻酔と全身管理
 - a) 麻酔法の種類と適応が理解できる。

- b) 分娩室において産科麻酔ができる。
- c) 全身管理ができる。

2. 婦人科の臨床

1) 婦人科疾患

- a) 性感染症の診断と治療ができる。
- b) 良性腫瘍の診断と治療ができる。
- c) 悪性腫瘍の診断と、治療について理解できる。
- d) 内分泌異常の診断と治療が理解できる。
- e) 性器の脱垂の診断と治療ができる。
- f) 更年期障害の診断と治療ができる。

2) 婦人科疾患の全身管理、救急時の全身管理、輸液、輸血、薬物療法ができる。

3) 婦人科手術

- a) 全身管理、リスクの評価、術後合併症の理解ができる。
- b) 婦人科手術の助手ができる。

3. 産婦人科検査

- 1) 妊娠反応の検査と判定ができる。
- 2) 各種ホルモン検査の意義と結果の判定ができる。
- 3) 超音波検査（経腹式、経膈式）ができ、結果の判断ができる。
- 4) 細胞診の検査ができ、結果が理解できる。
- 5) 組織診の検査ができ、結果が理解できる。
- 6) CT、MRI検査の指示ができ、結果が理解できる。

[3] 研修内容

産婦人科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟又は外来					病棟又は外来			外来カンファ・勉強会				
火曜日	病棟又は外来					病棟又は外来							
水曜日	手術					手術							
木曜日	手術					手術							
金曜日	手術					手術			病棟カンファ		CPC又はCC (第3)		

Ⅷ. 精神科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院精神科

指導責任者 小幡 径行 (精神保健指定医)

北里大学東病院精神科

指導医 澤山 透 (精神保健指定医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

一般医として精神医学的素養を修得しようと希望する医師のための、一般精神医学のみでなく、コンサルテーション・リエゾン精神医学、児童思春期精神医学の研修、また各科を通じての身体的プライマリ・ケアの基本知識と技能の習得を行い、態度を養う。

II. 行動目標

精神医学一般の下記項目に関する基本知識、技能、態度を習得する。

1. 精神科面接法
 - a) 患者の訴えを傾聴し、理解・共感する姿勢を身に付ける。
 - b) 患者の人権尊重の基本理念を身に付ける。
 - c) 患者との面接から患者の精神状態の把握ができる。
 - d) 家族との面接から患者の日常生活に関して情報を得ることができる。
2. 精神科診断法を習得する。
 - a) 精神科的各種徴候、症状について知識を持ち、診断に役立てることができる。
3. 各種精神科検査法を理解し、指導医の助言の下に結果を判断できる。
 - a) 脳波、CT、MRI、心理テスト、知能テスト等
4. 各種精神科治療法の意義を理解し、実施又は介助ができる。
 - a) 薬物療法、個人精神療法、集団精神療法、身体的療法等
5. 精神障害者の処遇及び精神保健福祉法、地域医療について理解する。
6. コンサルテーション・リエゾン精神医学について基本的な知識を身に付ける。
7. 小児・児童・思春期精神医学について基本的な知識を身に付ける。
8. 身体的プライマリ・ケアの基本的知識と技能・チーム医療を身に付ける。

[3] 研修内容

午前は外来診療を通じ、各種症例について研修する。なお、2年次については、北里大学東病院において入院・外来診療及び地域精神医療の研修を行うことも可能としている。

1. 大和市立病院
 - ・指導医の下で外来及びリエゾン診療を行う。
 - ・精神科面接法、診断法を習得する。
 - ・精神科検査・処置を担当又は介助する。

- ・各種カンファレンス、抄読会等に参加する。
- ・大和市立病院のCPC、CC、講演会等に参加する。

大和市立病院週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	外来診療						リエゾン診療						
火曜日	外来診療						リエゾン診療						
水曜日	外来診療						リエゾン診療						
木曜日	外来診療						リエゾン診療						
金曜日	外来診療						リエゾン診療				CPC 又は CC (第3)		
土曜日	各種研究会参加など												

※ 適宜、ケースCR及び科内会議を行う。

2. 北里大学東病院

(1) 実習とその日程(研修は下記の1)、2)、3)を適宜組み合わせて行う)

1) 東病院精神神経科研修

入院患者を担当し、さらに初診外来、心療ストレス外来、物忘れ外来、アルコール外来、デイケア・作業療法部門などでも研修を行う

2) 大学病院リエゾン精神医学研修

3) 精神科病院研修

教育関連病院である外部の精神科病院で研修する

(2) 指導体制

1) 東病院精神神経科病棟

研究員、診療講師、講師が指導医となり、各1名の研修医を配属

2) 東病院外来

当日の外来担当医が担当

3) 東病院当直

当日担当の精神保健指定医が担当

4) 大学病院リエゾン精神医学研修

大学病院勤務の研究員以上のスタッフが担当

5) 精神科病院研修

各病院の指導医が担当

Ⅸ. 整形外科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院整形外科

指導責任者	林 陸	(整形外科：日本整形外科学会専門医)
指導医	村田 淳	(整形外科：日本整形外科学会専門医、身体障害者福祉法指定医)
指導医	竹内 久恵	(整形外科：)
指導医	鈴木 宙	(整形外科：日本整形外科学会専門医)
指導医	横山 弓夏	(整形外科：)
指導医	片野 俊弘	(整形外科：)

[2] 到達目標

I. 一般目標

1. 主要な整形外科的疾患の基本的診察ができる。
2. 必要な検査が選択でき、一部は自ら結果を診断できる。
3. 整形外科的な基本的処置ができる。
4. 手術の助手として介助ができる。
5. 術後患者の管理ができる。
6. リハビリテーションの意義を理解し、依頼ができる。

II. 行動目標

1. 運動器の基礎知識
 - 1) 骨・軟骨・関節の生理解剖を理解し、臨床に応用できる。
 - 2) 神経・筋・腱・脈管の生理・解剖を理解し、臨床に応用できる。
2. 診断と検査
 - 1) 骨と関節のX線診断が的確にできる。
 - 2) CT、MRI、骨シンチなどの画像診断を指導者の意見を求めて判断できる。
 - 3) 関節造影、脊髓腔造影などの所見を指導者の意見を求めて判断できる。
 - 4) 基本的診察と病態考察ができる。
 - 5) 神経学的に高位診断ができる。
 - 6) 救急外傷患者に的確で迅速な病態把握ができる。
 - 7) 痛みの原因分析が十分できる。
 - 8) 整形外科的緊急危険症状を判断できる。
3. 整形外科臨床知識と力量
 - 1) 病態把握と患者の背景からその人に合った治療計画と見立てができる。
 - 2) 病態、治療法、合併症、予後について本人、家族に十分な説明を行い、同意が得られる。
 - 3) 正しいカルテの記載ができる。
 - 4) 看護師、PT、OTに明確な指示ができる。

- 5) 適切な薬剤処方、使用ができる。
- 6) 徒手整復の正しい適応と実施ができる。
- 7) 外固定（ギブス包帯固定、副子固定）を正しく実施できる。
- 8) 直達、介達牽引の実施、管理が正しくできる。
- 9) 関節内注射、神経ブロックが正しくできる。
- 10) 局所麻酔が正しくできる。
- 11) 主要な外傷性疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 12) 主要な関節疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 13) 主要な脊椎、脊髄疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 14) 主要な手の外科、末梢神経疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 15) 主要な炎症性疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 16) 主要な腫瘍性疾患の病態を理解し、適切な治療ができる。
- 17) 骨粗鬆症などの骨、関節の加齢性変化による病態を理解し、適切な治療ができる。
- 18) 先天性疾患の初期治療が適切にできる。
- 19) 骨、関節感染症の初期治療が適切にできる。
- 20) 小児外傷の緊急性を判断し、初期治療ができる。
- 21) 手指新鮮外傷の緊急性を判断し、初期治療ができる。
- 22) 開放骨折の緊急性を判断し、初期治療ができる。
- 23) 脊椎、脊髄損傷の緊急性を判断し、初期治療ができる。
- 24) 多発外傷患者において、各損傷の優先性を考えた治療ができる。
- 25) 緊急外傷患者の搬送について正しく判断し、処理できる。

[3] 研修内容

整形外科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟回診						検 査			術前カンファレンス			
火曜日	病棟回診						手 術			術前カンファレンス リハカンファレンス			
水曜日	病棟診療						手 術			術前カンファレンス 術後カンファレンス(毎回) 外来カンファレンス			
木曜日	病棟回診						手 術			術後カンファレンス(毎回)			
金曜日	病棟診療						手 術			術後カンファレンス(毎回)			
土曜日	各種研究会参加等												

X. 脳神経外科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院脳神経外科

指導責任者 萩原 宏之 (脳神経外科専門医)

指導医 山田 勝 (脳神経外科専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 主要な脳神経外科的疾患の基本的診察ができる。
2. 必要な検査が選択でき、一部は自ら結果を診断できる。
3. 脳神経外科的な基本的処置ができる。
4. 手術の助手として介助ができる。
5. 術後患者の管理ができる。
6. リハビリテーションの意義を理解し、依頼ができる。

II. 経験目標

1. 脳神経系の基礎知識
2. 診断と検査
 - 1) X線診断が的確にできる。
 - 2) CT、MRIなどの画像診断を指導者の意見を求めて判断できる。
 - 3) 基本的診察と病態考察ができる。
 - 4) 神経学的診察ができる。
 - 5) 救急外傷患者に的確で迅速な病態把握ができる。
 - 7) 痛みの原因分析が十分できる。
 - 8) 検査の意義を十分理解し、検査の適応を正しく処方できる。
 - 9) 基本的検査を適切に計画し、意味を判断できる。
 - 10) 論理的、学理的に病態把握を正しく思考できる。
 - 11) 脳神経外科的緊急危険症状を判断できる。

[3] 研修内容

脳神経外科救急週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟回診						病棟カンファレンス			病棟回診			
火曜日	病棟回診						退院検討会、抄読会			病棟回診			
水曜日	病棟回診						検査、手術検討			病棟回診			
木曜日	手術						手術						
金曜日	病棟回診						病棟回診、症例検討			夜間当直 CPC又はCC（第3）			
土曜日	各種研究会参加など												

（適時、症例検討、画像カンファレンス、小講義などを行う。）

XI. 皮膚科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院皮膚科

指導責任者 徳永千春 (皮膚科専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 各種皮膚科疾患について学習し、基本的な診断法及び治療法について習得する。
2. 熱傷等の緊急患者のプライマリ・ケアとしての対応ができる。

II. 経験目標

1. 皮膚科の診断学の基礎を習得する。
 - 1) 問診により必要な情報を得ることができる。
 - 2) 発疹の記載を正しく行うことができる。
 - 3) 代表的な皮疹の鑑別ができる。
2. 皮膚病理組織学
 - 1) 皮膚病理組織一般の理解ができる。
 - 2) 免疫組織化学法の意義が理解できる。
3. 皮膚科検査法を理解する。
 - 1) 皮膚科検査一般（真菌検査、硝子圧診、皮膚描記法、Nikolsky 徴候など）ができる。
 - 2) 免疫学的検査法（皮内試験、貼付試験など）の意味を理解し、実施できる。
 - 3) 皮膚生検法ができる。
4. 皮膚疾患の的確な治療が行える。
 - 1) 全身療法（抗生物質、ステロイド剤、抗腫瘍剤、抗ヒスタミン剤など）が行える。
 - 2) 外用療法（ステロイド剤、抗真菌剤、抗生物質、角質溶解剤など）の使い分けを理解する。
 - 3) 基本的な皮膚科疾患（湿疹、接触性・脂漏性・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、中毒疹など）の管理ができる。
 - 4) 物理療法（液体窒素療法、電気焼灼など）の適応疾患を理解する。
5. 皮膚科における外科的処置を学ぶ。
 - 1) 皮膚科の基礎（麻酔法、消毒法、切開、縫合など）ができる。
 - 2) 熱傷の初期治療ができる。
 - 3) 術後管理ができる。
 - 4) 皮弁法、植皮法を理解する。

[3] 研修内容

皮膚科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	外来						外来生検 外来手術・中央手術室						
火曜日	外来						外来手術、検査、往診 病理検討会						
水曜日	外来						外来生検・手術						
木曜日	外来						外来手術						
金曜日	外来						外来生検 病棟往診 中央手術室						
土曜日	各種研究会参加等												

XII. 泌尿器科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院泌尿器科

指導責任者 岡 島 和 登 (泌尿器学会専門医)

指 導 医 古 屋 一 裕 (泌尿器学会専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 各種泌尿器科疾患について学習し、基本的な診断法及び治療法について習得する。
2. 急性炎症、尿閉、外傷等の緊急患者のプライマリ・ケアとしての対応ができる。

II. 経験目標

1. 泌尿器科の診察について
 - 1) 病歴が聞き取れ、正しく記載できる。
 - 2) 泌尿器科独特の診察法（外陰部診察、前立腺の触診など）ができる。
2. 泌尿器科における検査法について
 - 1) 検尿と沈渣の検鏡が自ら実施でき、結果が理解できる。
 - 2) X線検査法（KUB、I V Pなど）、尿道造影が自ら実施でき、結果が理解できる。
 - 3) 超音波検査（腎臓、膀胱など）が自ら実施でき、結果が理解できる。
 - 4) 腎機能検査（クレアチニン・クリアランス）が自ら実施でき、結果が理解できる。
 - 5) 特殊X線検査（R P、血管造影）、C T、MR I、核医学は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
 - 6) 内視鏡検査法（膀胱鏡）は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
 - 7) 経腸的超音波検査法は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
 - 8) 生検検査法は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
 - 9) 精液検査法は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
 - 10) 膀胱機能検査法は指導医の下で実施又は結果が理解できる。
3. 泌尿器科的処置
 - 1) 尿道カテーテルの挿入、留置（ネラトン、留置カテーテル）ができる。
 - 2) 膀胱洗浄ができる。
 - 3) 尿管カテーテル、ステントの挿入の介助又は見学をする。
 - 4) 腎瘻・膀胱瘻カテーテルの挿入の介助又は見学をする。
 - 5) 尿道ブジー（直、曲、誘導ブジー）の挿入の介助又は見学をする。
4. 泌尿器科的疾患の治療を的確に行うことができる。
 - 1) 尿路性器感染症の治療と抗生物質の選択ができる。
 - 2) 尿路結石の治療が理解できる。
 - 3) 尿路性器癌の化学療法及び放射線療法が理解できる。
 - 4) 前立腺肥大症の薬物療法が理解できる。
 - 5) 排尿障害の原因と治療法が理解できる。

- 6) 腎不全の治療法が理解できる。
- 7) 尿路性器の外傷の治療法が理解できる。
- 5. 泌尿器科的手術及び術前・術後管理
 - 1) 経尿道的手術が理解できる。
 - 2) 尿路結石の手術（E SWLを含む）が理解できる。
 - 3) 小児泌尿器科手術が理解できる。
 - 4) 尿路・性器癌の手術が理解できる。
 - 5) 副腎の手術が理解できる。
- 6. 泌尿器科における救急疾患
 - 1) 尿路結石の痛みに対する対応ができる。
 - 2) 尿閉に対する対応ができる。
 - 3) 尿道及び腎臓の外傷に対する対応が理解できる。
 - 4) 精索捻転の診断と対応が理解できる。
 - 5) 嵌頓包茎の診断と治療ができる。

[3] 研修内容

泌尿器科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟回診又は手術						手術						
火曜日	病棟回診又は手術						手術			症例検討会 抄読会			
水曜日	病棟回診又は手術						外来検査、結石治療						
木曜日	病棟回診						外来検査、結石治療			研究会等			
金曜日	外来診察						外来検査			C P C 又は C C (第3)			
土曜日	各種研究会参加等												

XIII. 眼 科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院眼科

指導責任者 山 根 敬 浩 (眼科専門医)

指 導 医 河 野 奈々子 (眼科専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 代表的な眼科疾患を理解し、眼科的基本診察法を習得する。
2. 非観血的治療および手術について理解し、一部は自ら行えるようにする。

II. 経験目標

1. 眼科疾患

1) 前眼部

- ①ドライアイ
- ②シェーグレン症候群
- ③涙液検査

2) 水晶体

Emery-Little 分類

3) 網膜

- ①構造
- ②高血圧、動脈硬化
- ③糖尿病網膜症
- ④黄斑円孔
- ⑤増殖硝子体網膜症
- ⑥網膜色素変性症
- ⑦未熟児網膜症

4) 緑内障

- ①隅角
- ②視神経乳頭
- ③視野
- ④病期

5) ぶどう膜炎

- ①炎症
- ②ベーチェット病
- ③サルコイドーシス

6) 斜視

斜視角-Hirshberg

7) 視神経・視路

視神経障害部位と視野変化

2. 眼科的基本診察法

1) 視力

- 2) 眼位、眼球運動
 - 3) 細隙灯顕微鏡
 - 4) 眼圧
 - 5) 眼底
3. 非観血的治療
- 1) 薬剤処方
 - 2) 基礎的治療、手技
 - 3) 眼鏡処方
 - 4) コンタクトレンズ (CL)
 - 5) 義眼
 - 6) 視能矯正訓練
 - 7) 伝染性疾患の治療および予防
 - 8) 放射線治療
 - 9) 免疫療法
 - 10) 眼科救急処置
 - 11) レーザー光凝固
4. 手術
- 1) 手術の理解と説明
 - 2) 手術の助手
 - 3) 豚眼によるウェットラボ

[3] 研修内容

眼科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病棟回診	外来診療					検査・光凝固				症例検討会・抄読会		
火曜日	病棟回診	外来診療					手術				視力・CL・眼鏡処方		
水曜日	病棟回診	手術					手術・眼科検査				視野		
木曜日	病棟回診	外来診療					レーザー光凝固				斜視・視能矯正訓練		
金曜日	病棟回診	外来診療					レーザー光凝固				CPC又はCC (第3)		
土曜日	各種研究会参加等												

XIV. 耳 鼻 い ん こ う 科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院耳鼻いんこう科

指導責任者 永井浩巳 (耳鼻咽喉科学会専門医、気管食道科学会認定医、耳鼻咽喉科補聴器相談認定医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 耳鼻咽喉科の代表的な疾患を理解し、診断に関する基本的な診察・検査法を習得する。
2. 耳鼻咽喉科の代表的な疾患をの基本的な治療法を習得する。
3. 耳鼻咽喉科救急疾患の初期治療について対応できる。

II. 経験目標

1. 耳鼻咽喉科の基本的技術
 - 1) 頭頸部の理学的所見を取ることができる。
 - 2) 耳鏡を使い、鼓膜の観察ができる。
 - 3) 鼻鏡を使い、鼻腔の観察ができる。
 - 4) 喉頭鏡を使い、喉頭の観察ができる。
2. 基本的な検査法
 - 1) 頭頸部のX線検査の読影ができる。
 - 2) CT、MRIの適応と結果の理解ができる。
 - 3) 超音波検査の適応と結果が理解できる。
 - 4) 各種聴力検査の適応と結果が理解できる。
 - 5) 平衡機能検査の適応と結果が理解できる。
 - 6) ファイバースコープの適応と結果が理解できる。
3. 耳鼻科救急処置の基本
 - 1) 耳垢塞栓の処置ができる。
 - 2) 鼻出血の止血ができる。
 - 3) 急性中耳炎の鼓膜切開ができる。
 - 4) 上気道狭窄に対する処置（気管内挿管、気管切開）ができる。
4. 耳鼻科の代表的疾患の病態、診断・治療計画が理解できる。
5. 耳鼻科手術の助手ができる。

[3] 研修内容

耳鼻咽喉科週間スケジュール

	9	12	13	14	15	16	17	19時
月曜日	病棟処置			手術			カンファレンス	
火曜日	外来／病棟処置			検査	外来		カンファレンス	
水曜日	外来				病棟処置		カンファレンス	
木曜日	外来／病棟処置			検査		術前検査	カンファレンス	
金曜日	手術／病棟処置			手術			カンファレンス C P C 又は C C (第3)	
土曜日		(病棟処置)						
日曜日		(病棟処置)						

XV. 放射線科

[1] 指導責任者

大和市立病院放射線科

指導責任者 布袋伸一

(医学放射線学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、人間ドック学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、医師会認定産業医、人間ドック健診情報管理指導士、PET核医学認定医、乳房超音波認定医、慶応大学医学部放射線診断科非常勤講師、東邦大学医学部放射線科非常勤講師)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 放射線科の特徴、危険度、適切な活用法を理解する。
2. 各種放射線検査の意義、方法、検査の適応を理解し、基本的な検査は読影できる。

II. 経験目標

1. 単純X線写真
 - 1) 胸部、腹部、頭部、脊柱、骨盤、四肢等の解剖が理解できる。
2. CT検査の介助と読影ができる。
3. MRI検査の基本が理解できる。
4. 腹部血管造影検査の介助と基本が理解できる。
5. 核医学検査の介助と基本が理解できる。
6. 消化管検査における解剖と検査手順が理解できる。

[1] 研修内容

放射線科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	CT・MRI・RI 胃透視（術前）					血管造影、マンモトーム生検 CT・MRI・RI							
火曜日	CT・MRI・RI 胃透視、マンモグラフィ読影					CT・MRI・RI マンモトーム生検							
水曜日	CT・MRI・RI					CT・MRI・RI							
木曜日	CT・MRI・RI 胃透視、マンモグラフィ読影					CT・MRI・RI (注腸検査)		外科、放射線科カンファレンス					
金曜日	CT・MRI・RI					血管造影、マンモトーム生検 CT・MRI・RI		CPC又はCC (第3)					
土曜日	各種研究会参加等												

XV. 病理診断科

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院病理診断科

指導責任者 小野田 登 (病理学会病理専門医、臨床細胞学会指導医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

1. 病理

- 1) 病理解剖を通じ、各症例における疾病の原因と病態の発生機転を理解し、正確な疾患概念を把握する。
- 2) 各症例の問題点が理解でき、その問題点解決に必要な論理的方法を身に付ける。
- 3) 臨床医学における病理の役割を理解し、検体提出から標本作成、診断書提出に至るまでの流れを知る。
- 4) 病理診断に必要な知識を学ぶ。
- 5) 各科医師との良好なコミュニケーションの取り方を学ぶ。

2. 臨床検査科

- 1) 臨床検査一般の実際が理解できる。
- 2) 検体検査の流れが理解できる。
- 3) 心電図、超音波診断、脳波などを指導者の下で実施できる。

II. 経験目標

1. 病理解剖 (剖検)

- 1) 病理解剖の基本的な手技ができる。
- 2) 問題点解明の為に必要な検査 (微生物培養など)、手技を指示することができる。
- 3) 肉眼所見を記載し、暫定報告書を作成することができる。
- 4) 病理解剖で摘出した臓器の切り出しと組織学的診断を指導者の下で行うことができる。
- 5) 病理解剖最終診断書の作成を指導者の下で行うことができる。
- 6) 病理解剖の関連法令が理解できる。

2. 生検診断

- 1) 手術材料の取り扱い及び切り出しを指導者の下でできる。
- 2) 一般染色法 (HE染色) と特殊染色法が理解できる。
- 3) 免疫組織化学について技法及び有用性が理解できる。
- 4) 生検診断を指導者の下で行うことができる。
- 5) 細胞診について理解できる。
- 6) 指導者の下に症例をまとめ、症例呈示ができる。

3. 臨床検査

- 1) 検体検査の流れの実際が理解できる。
- 2) 心電図や超音波検査 (特に腹部超音波検査など) の生理機能検査ができる。

[3] 研修内容

病理・臨床検査科週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	時
月曜日	病理解剖、術中迅速診断 オンコール					生検、細胞診チェック 手術材料切り出し							
火曜日	病理解剖、術中迅速診断 オンコール 免疫組織化学実習					生検、細胞診チェック 病理解剖、組織診断 (まとめ)				臨床検査科ミーティング (第1)			
水曜日	病理解剖オンコール 超音波診断研修					生検、細胞診チェック 手術材料切り出し				消化器カンファレンス (第1)			
木曜日	病理解剖オンコール 超音波診断研修					生検、細胞診チェック 解剖例切り出し(含 Brain cutting)				臨床検査科ミーティング (第3)			
金曜日	病理解剖、術中迅速診断 オンコール 抄読会					生検、細胞診チェック 手術材料切り出し				CPC又はCC(第 3) 医局会(第1)			
土曜日	各種学会、研究会参加 等					神奈川病理医会(年2 回)							

XVI. 一般外来研修

[1] 指導責任者及び指導医

大和市立病院内科

指導責任者	松本裕	(呼吸器内科：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医・指導医、アレルギー学会専門医、呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、結核病学会結核・抗酸菌症認定医、ICD制度協議会認定インフュジョンコントロールクター、産業医)
指導医	竹下康代	(腎臓内科：内科学会総合内科専門医、腎臓学会専門医、透析医学会専門医、アフレスミス専門医、高血圧指導医、産業医)
指導医	山本和寿	(消化器内科：内科学会総合内科専門医、消化器学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医)
指導医	井上聡	(呼吸器内科：内科学会認定内科医)
指導医	橋本千寿子	(血液内科：内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、がん薬物療法専門医・指導医、がん治療認定医・暫定教育医)
指導医	今木隆太	(循環器内科：内科学会認定内科医、循環器学会循環器専門医、不整脈心電学会不整脈専門医、内科学会総合内科専門医、心血管インターベンション治療学会認定医)
指導医	高橋謙一郎	(糖尿病・内分泌内科：内科学会認定内科医、糖尿病学会専門医)
指導医	山崎哲	(リウマチ科)
指導医	岡本光生	(脳神経内科：神経内科専門医)

[2] 到達目標

I. 行動目標

プライマリ・ケアの基本として、一般外来において症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うことを修得する。

II. 経験目標

1. 主訴と現病歴を適切に聴取し、記載することができる。
2. 身体所見を的確に取り、記載することができる。
3. 検査値、心電図、画像（X線、超音波、CT、MRIなど）を的確に解釈できる。
4. common disease（感染症、アレルギー疾患など）の診断と治療ができる。
5. 慢性疾患の治療・管理法を理解できる。

[3] 研修内容

一般外来での研修は、内科及び地域医療の研修中に並行研修により、4週の研修を行う。内科では特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修とする為、内科初診外来での研修を行う。